



大学の研究室紹介

『東北大学大学院薬学研究科

医療薬学講座臨床薬学分野』

Member

臨床薬学

教授 今井 潤
准教授 戸恒 和人
助教 菊谷 昌浩

連絡先

T E L : 022-717-7770 (星陵キャンパス)
022-795-6807 (青葉山キャンパス)
F A X : 022-717-7776 (星陵キャンパス)
022-795-6839 (青葉山キャンパス)
H P : <http://www.cpt.med.tohoku.ac.jp/>

研究テーマ

東北大学大学院薬学研究科医療薬学講座臨床薬学分野は東北大学医学部第二内科より今井潤教授が着任し、1999年に設置されました。翌年には、医学研究科内科病態学講座臨床薬学分野が併設され、2003年には、臨床薬学分野を主体として、医薬開発構想寄附講座が成立しました。さらに、昨年度までの5年間、文部科学省Center of Excellenceに「医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点」が採択され、医薬開発に関わる人材育成等の活動を行ってきました。同時に今井教授は東北大学病院治験センターの副センター長として活動しています。

研究内容は

1. 大迫研究
 2. HOMED-BP研究
 3. BOSHI研究
 4. J-HOME研究
 5. 服薬コンプライアンス、医療経済研究
 6. 降圧薬臨床薬理研究
 7. 高血圧関連遺伝子研究
 8. NMRメタボローム研究
- などといえます。

これらの研究は、戸恒和人准教授や大久保孝義准

教授をはじめとする医薬開発構想寄附講座と共に実施されており、その他にも国内外の施設と共同研究として実施されています。

1. 大迫 (Ohasama) 研究 : 23年前に岩手県大迫町で、行政、県立大迫病院と共に開始した家庭血圧、自由行動下血圧、循環器疾患に関する長期前向きコホート研究です。その成果が、国際的なガイドラインにおける家庭血圧、自由行動下血圧の根拠となった臨床疫学研究として世界的評価を受けています。また、生活習慣病の遺伝学的研究や頭部MRI、頸動脈エコー、GTT検診等広範な検討を行っています。大迫研究は、国内外の国際共同データベースへ参加する形で、世界の循環器疾患のエビデンス創出に貢献しています。
2. HOMED-BP研究 : 大迫研究の成果として、家庭血圧の正常値と高血圧値が決定されたことから派生した降圧薬に関する大規模介入試験です。記憶装置のついた家庭血圧計とインターネットを用いるという斬新な発想の下に全国的規模で行われています。
3. BOSHI研究 : 宮城県岩沼市のスズキ記念病院において、母子健康手帳・家庭自己測定血圧に基づいた三世代(祖父母、父母、児)の血圧・環境・遺伝要因連関と生活習慣病発症に関する縦断的な研究であり、正常血圧妊婦における出産前後の血圧推移などが明らかにされています。
4. J-HOME研究 : 全国規模の高血圧診療に関する調査研究です。家庭血圧測定中の高血圧患者さんにおける血圧管理状況や降圧薬使用状況、血圧管理と予後との関連を検討する研究や、合剤の有用性を評価するものなど、J-HOMEと名の付く研究が5つ継続中です。
5. 服薬コンプライアンス、医療経済研究 : 慢性疾患を扱う医師、薬剤師にとって、服薬コンプライアンスや医療経済に基づく視点は大切です。にもかかわらず日本ではこの領域の研究は極めて少ない状況です。服薬コンプライアンスについては、医療機器メーカーや、東北大学工学部、宮城県薬

剤師会と共同で、医療経済については、医療経済の専門家の協力の下、これらの領域の研究を行っています。

6. 降圧薬の臨床薬理学的研究：本研究室の大部分の教員は今の所医師であるため、毎日の診療は、臨床薬理学的アプローチそのものであるという立場に立ち、薬効解析、時間薬理学的研究を行っています。

7. 高血圧関連遺伝子研究：大迫研究、HOMED-BP研究に基づくgeneの解析は、本関連分野と共に大阪大学、愛媛大学や本学分子代謝病態学分野などとの協同で進められています。また、本分野独自に、ウロテンシンなどの遺伝子解析が進んでいます。本分野での遺伝子解析の特徴はその背景に厳密なフェノタイプの同定があるということです。

8. NMRメタボローム研究： ^1H NMRを用いたメタボローム解析法の臨床応用研究を日本では唯一の本格研究として立ち上げ、生活習慣病や慢性腎

臓病 (CKD) などをターゲットとして分析を進めている。

本関連分野の立場は、「地に足のついた研究」であり、「臨床・病態に則った薬物研究」でもあります。また「薬」が共通のテーマであることも特徴的です。ことに、臨床開発とそれに携わる研究者、実践者の育成を最大のテーマに取り入れており、採択期間が終了した今年度も、臨床研究実践者育成のためのMaster of Clinical Scienceコースが東北大学の講義コースとして、継続しています。このように、本研究室は、東北大学の高血圧を中心とした生活習慣病研究、臨床薬理研究、臨床疫学研究、医薬臨床開発研究などを牽引しています。またこれら臨床薬学分野が本邦における高血圧、生活習慣病研究のメッカとなり、また臨床医薬開発の拠点となることを夢みて、教室員一同頑張っています。

(文責：小原 拓)